

学校評価書 平成29年度(2017年度)

(S…目標を大きく上回る成果、 A…目標以上の成果、 B…ほぼ目標を達成、 C…目標を達成できず、 D…目標に対して、著しく下回る状況)

学校名	早鞆高等学校	学校状況	生徒数	780	教育目標 ・個性を伸ばし、自主性を養い、明朗快活で勤労意欲に富んだ実践力のある人物の育成を図る。 ・「仁、智、礼」を掲げ、基本的生活習慣の確立、基礎学力の向上、礼儀正しさの涵養を目指す。	総合評価		今後への改善点 ・引き続き、元気な挨拶、きれいな学校、出席率の向上を目標に、落ち着いた学校づくりを行う。 ・きめ細やかな指導を行い、地域の中学校の期待に答え、入学者数の増加が定着するよう努める。	
校長名	飯田 規寛		設置学科	普通科 自動車工学科 生活クリエイト科 衛生看護科		学校自己評価	学校関係者評価		
設置の経緯	明治34年(1901年)阿部ヤスによって地域の子女の知育、徳育、和裁教育を目的に設置。その後、時代の変化に即応して男子生徒の募集、学科・コースの新設・改編を行いつつ地域教育の中核を担っている。					B	B		

評価項目	取組状況		自己評価		取組状況・成果・課題	今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見	
	目標	具体的方策(教育活動)	個別評価	総合評価					
青 青 館	第 I 類	学習習慣の定着と成績向上	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の改善 学力向上に向けた授業内容等の充実 週6日制の授業体勢の確立(週39単位) 8時間目のECL(課外授業)の展開 少人数による選択授業の展開 	A	B	平素の学習については、学習習慣調査や「振り返りノート」を通して、個々の生徒の学習状況を把握している。少人数の授業展開という利点から、生徒個々の躓きを早期に発見し、改善へと導いている。放課後の質問時間においては、生徒への個別対応というかたちで学力の拡充を図っている。	学習状況の把握については、「振り返りノート」が役に立っている。しかし、日々の学習の振り返りがマンネリ化し、感想文程度の生徒もなかにはいる。1日の振り返りが明日の学習を支えることを理解させることが大事である。また、合同ホームなどを通して、インターネットの使い方を指導するなど、正しい倫理観を育てるように心掛け、他者への思いやりや寛容な心を育てる必要がある。来年度から校時表の変更、8時間目の授業体制の変更を予定している。生徒が自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を滋養していく授業展開が望まれる。少人数制である青青館の教育システムを生かして、思考力・判断力・表現力が身につくような学校教育の運営を目指していく。	A	<ul style="list-style-type: none"> 青青館は市内でも大変注目されているコースである。さらなる向上を期待する。 青青館の教育システムが生かされ、進路結果に結びつくような指導をお願いする。
		自立へ向け、生きる力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 公的な場における言動や身だしなみ 挨拶など他者への配慮を持つ 場にふさわしい行動を自発的に行う 	B		SHRや集会等あらゆる機会を通して言動やマナーの意識向上を図った。その結果、状況に応じた行動はとれるようになっていたが、他者への配慮に欠けたり、授業態度に問題のある生徒も数名見受けられた。			
		進路希望の実現に向けて主体的に取り組む姿勢を養う	<ul style="list-style-type: none"> 進路便りを作成し、基本情報を与える 進路講話や見学会を行い、進路に対する意識を高揚させる 定期的に個人面談を行う 	B		学習面においては、向上心の高い生徒は多くいる。担任の個々の生徒に対する面談を定期的に行い、適切な支援を行うことができた。本年度の3年生については、生徒達の第1志望を尊重して受験先を決定したが、合格レベルと本人の実力との隔たりを埋めてあげる指導ができなかった。			
	第 II 類	学習習慣の定着と成績向上	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の改善 学力向上に向けた授業内容等の充実 週6日制の授業体勢の確立(週39単位) 8時間目のECL(課外授業)の展開 少人数による選択授業の展開 	A	A	平素の学習については、学習習慣調査や「振り返りノート」を通して、個々の生徒の学習状況を把握している。1年次においては学習習慣の確立されていない生徒もいるので、教員間で情報共有をはかり、指導へと還元した。	学習状況の把握については、「振り返りノート」が役に立っている。しかし、生徒のなかには学習の振り返りのできないものもいる。青青館の少人数制という利点を生かし、生徒の学習意欲が高まるような適切な指導が必要である。生徒の学力に応じた課題を選別し、適切な課題指導に努めることも望ましい。また、生徒会行事や特別活動への参加を充実させ、生徒の知・徳・体のバランスのとれた成長を促すことも大切である。来年度からECLでは、生徒との「対話的な学び」を展開し、生徒自身が他者の考えを交流させながら、自身の考えを広げられるような学習の展開が期待される。生徒の思考力・判断力・表現力を引き出すように支援していくことが大切である。	A	<ul style="list-style-type: none"> 青青館は市内でも大変注目されているコースである。さらなる向上を期待する。 教員の共通認識のもとに、学習・生徒指導を引き続きお願いする。
		自立へ向け、生きる力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 公的な場における言動や身だしなみ 挨拶など他者への配慮を持つ 場にふさわしい行動を自発的に行う 	B		SHRや集会等あらゆる機会を通して言動やマナーの意識向上を図った。また、家庭との連携を密にし、遅刻欠席などのないよう生活習慣の確立に努めた。クラスの雰囲気は良いが、時には授業態度の指導を要する場合もあった。			
		進路希望の実現に向けて主体的に取り組む姿勢を養う	<ul style="list-style-type: none"> 進路便りを作成し、基本情報を与える 進路講話や見学会を行い、進路に対する意識を高揚させる 定期的に個人面談を行う 	A		毎週の職員会議や職員朝礼を通して教員間の情報共有を密にし、学力差のある生徒達が目標に向かって努力できるような支援を行った。本年度の3年生については、約3割の生徒は国公立大学への進学を決めた。			
教 務	教員の作業環境を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な授業変更を目指し、丁寧な伝達をしていく 機材整備をし、活用法等を研究する 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 交換の必要な備品はすべて整備を完了し、授業運営も概ね円滑であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内のハブ等が古くなってきているので、交換を順次進めていかなければならない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の取り組み体制を整えて頑張ってください。 教育環境の充実を向上させてほしい。 	
	教員研修の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修を提示(掲示・発表)し、研修に参加しやすい環境を整える 資料等を充実させる 	B		<ul style="list-style-type: none"> 一般的な対応は実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな目標を設定していく。 			

評価項目	取組状況		学校自己評価		今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見	
	目標	具体的方策（教育活動）	自己評価					取組状況・成果・課題
			個別評価	総合評価				
生徒指導	基本的な生活習慣を身につけさせる	<ul style="list-style-type: none"> 校門における挨拶の励行（毎朝） 朝礼前の静座黙想指導 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人差はあるようだが、全体的には明るくよい挨拶をしていると思う。 今年度の全体指導は2回程度だった。このことから、規範意識は向上していると感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指導や働きかけに対して、期待するような反応があらわれない生徒がいる。あきらめることなく指導を継続していく必要を感じる。 生徒の規範意識は確実に向上してきていると感じる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成が十分に行われている。 根気強い生徒指導が実施され、生徒は大変良くなっていると思う。 挨拶こそが社会に出て第一の基本である。 基本的な生活習慣の向上と問題生徒への対応をお願いしたい。
	規範意識をもたせる	<ul style="list-style-type: none"> 月1回程度の頭髪・服装検査 校内巡視 ・校外指導 全体指導 ・週末指導 別室指導 	A					
進学指導部	進学する生徒の進路先の確保	<ul style="list-style-type: none"> 志望する大学へ合格させる 志望する専門学校へ進学させる 進学先未定生徒を減らす 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 進学者数(本館の卒業生) 4年生大学…53名 短期大学…17名 専門学校…70名 小論文や面接指導の実施 学校説明会等への参加 校内での進路ガイダンスの開催 保護者を対象とした進学講演会の実施 大学等の出前授業の実施 進学課外の実施 入試制度改革への対応 	<p>推薦(指定校・一般)・A0入試制度を利用して進学先を決定する生徒の割合が増加しているが、その中には入学後の基礎的な学力が懸念される生徒も見受けられる。また、進学に対する意識が十分に育っておらず、志望動機等が言えない、書けない生徒が増加傾向にある。今後の課題としては、基礎的な学力を高めていく必要性を強く感じている。さらに、入試制度改革にどのように対応していくべきかを、進学指導部として模索中のところである。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 28年度より進学者数が増加している。良い傾向である。これからもよりきめ細かい指導をお願いする。
	進学に関する情報の収集と提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進学に関する情報の収集 進学に関する情報の提供 進学に対する意識の向上を図る 	B					
	進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種進路ガイダンスの実施 	A					
	学力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学力を向上させる 	C					
就職指導部	社会人としての心構えを作る	<ul style="list-style-type: none"> 礼法などの時間でのマナー指導 外部講師による講習会を実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演会、マナー講習会を実施したことで、ガイダンスの充実を図ったが、働くことへの意欲の喚起になかなか結びつかなかった。 3年生1学期～2学期にかけて小テスト・模擬テストを実施し成果はあったと思う。 SPIテスト入門編を2年生に、基礎編を3年生に実施した。 個別、集団面接を段階的に実施し、生徒も積極的に参加し、成果があったと思う。 応募前見学は68事業所延べ生徒数115名が参加し就職意欲の向上、早期就職内定につながった。 インターンシップは23社51名参加し発表会を実施したことで学びの共有ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次より外部講師による講習会を積極的に実施し、勤労観・職業観を醸成していきたい。 小テスト、模擬テスト、SPIは今後も同様に続けていきたい。 保護者説明会や相談会を2年次にも実施し、就職活動の流れや、企業・職種についての理解を促進していきたい。 インターンシップについては、生徒の学習内容や進路希望に応じた企業又は産業職場での就業体験を推進していく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを育ててほしい。社会を生徒に意識させることが大事だと思う。 生徒が将来何をしたいのか、あるいは生徒の隠れた才能を引き出すような指導をお願いしたい。 これからも、生徒の卒業後の進路実現に向けた努力をお願いしたい。
	合格率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 受験対策 小テスト, SPI, 模擬テスト実施 面接指導(段階に分けて) 	B					
	キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 勤労意欲の育成 応募前見学、インターンシップ活動実施 外部講師による講習会を実施 	B					
保健体育部	集団行動の充実 (時間厳守、服装の正しい着用、靴の履き替え、挨拶・礼の指導)	<ul style="list-style-type: none"> 授業の時間、全体集合等において好ましくない礼が行われた場合はやり直しさせる。また、入場の際は私語を慎み静かに入場させる 	C	B	<p>全体集合等において、今以上の集団行動の充実を図る。来年度は、礼・挨拶の徹底を心がけたい。施設の充実については、より充実した施設が整うよう要望を伝えていく。感染症の予防に関しては、手洗い、うがいの実践を促し、校舎の廊下等に消毒液を設置するなどの対策をとる。クラブ活動の活性化については、施設・設備が整うよう要望する。また、クラブ顧問との関係を密にし、クラブ活性化をはかる。多くのクラブが全国・中国大会に出場できるよう努力する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防対策は念入りをお願いしたい。 クラブ活動については、さらなる向上を期待している。 自己評価Cの項目についても、向上するよう努力を期待する。 	
	施設・設備の充実 (より充実した授業展開に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> 新体育館の使用開始に伴い、より充実した施設・設備が整うよう研究する 	B					
	感染症の予防及び性教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 手洗い・うがいの促進し、保健の授業では予防方法を理解させる 性教育の講演を実施 	B					
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備が整うよう研究する クラブ顧問との関係を密にし、活性化をはかる 	C					

評価項目	取組状況		学校自己評価		今後への改善点	学校関係者の評価	学校関係者の意見		
	目標	具体的方策（教育活動）	自己評価						
			個別評価	総合評価					
第三学年	社会で認められる力をつける (出席率の向上 コミュニケーション能力の向上)	・生活習慣の定着 ・静座黙想、礼節(挨拶・言葉遣い)の徹底 ・頭髪服装は日頃から指導	B	B	・出席率が学年全体で98.0%であった。進路決定後、若干気持ちが緩んだ部分もあったが、一定の水準には達していたと思われる。 ・最高学年としての自覚を持ってあらゆる場面で積極的な活動を行うことができた。学校行事においては率先して取り組み、行事の成功に大きく貢献した。 ・各学科コースに応じた指導を担任と就職指導部・進学指導部が連携し、大半の生徒が志望進路を実現した。今後はさらに早期から進路指導を行うことが望まれる。 ・専門的知識・技術を有する非常勤講師・助手とともに生活クリエイト科、自動車工学科および衛生看護科は実習において少人数の班編制とし教育効果を高めている。	B	・進路決定後に生徒のモチベーションをどのようにしていくかが、今後の課題である。進路目標達成後、安堵ではなく更なる向上心を育むための明確な生徒個別に対応した目標設定などが必要であった。また、早期離職、早期退学を防ぐためにも、ある程度のモチベーションを維持し、そして卒業後につながる課題に取り組むことも必要だと感じた。 ・最高学年としての意識を高いレベルで生徒が持つことで学校全体が引き締まるため、計画的な3ヵ年の指導が重要だと感じた。小さな変化を見逃さず早期の対策が大切であるため、担任の学級経営能力を高めながら、日々の教育活動に当たることが大切だと考えられる。	B	・目標達成に向けた努力の成果が出ているように思う。 ・3学年担任の進路指導力の発揮をお願いする。
	最高学年としての自覚と責任を持つ (下級生に対する模範的行動)	・集団生活における意識態度を形成 ・最高学年は早鞆の顔という意識 ・学校行事への積極的な参加	B						
	進路実現を図る (自分の力で進路決定学力の向上)	・学習意欲を高める指導の実践 (各コースの目標に沿った授業を展開、資格取得や成績への目標意識の形成)	B						
第二学年	基本的生活習慣の定着	・学校生活を通して他人に対する思いやりの気持ちをもち協調性を身につける ・明るく元気な挨拶をする。正しい言葉遣い、礼儀を意識して行う	B	B	・特定の生徒における欠席・遅刻の指導に関しては粘り強く続ける必要がある。しかし風紀面に関しては違反自体が減り、また指導にも素直に従う等、大きな改善がみられている。また各種行事を通して責任感が見られはじめてきた。 ・授業に関しては気の緩みもあり成績不良者が昨年より増加した上、指導改善に長期間を要しているため、早急の改善が必要。 ・進路については次年度に対する自覚が芽生え、夢や進路目標を定める生徒が多くなったと思われる。	B	・特定の生徒に対しては引き続き担任・家庭だけの関係でなく多方面からのアプローチを続けていく必要がある。また元気な挨拶が行き過ぎて礼儀を見失わないよう教員側の規範意識は常に保ち続ける必要がある。 ・学力の向上に対しては生徒の自覚を促しながらも、常にフォロー体制を整える必要がある。 ・また、すべての目標に言えることだが、事前指導、事後指導、そして継続的な指導がより重要である。 ・進路に関しての保護者との緊密な連携を引き続きとり続けることが必要。	B	・目標達成に向けた努力の成果が出ているように思う。 ・2学年は学校への慣れから気が緩みやすい学年である。学年集団としての教員のアプローチが有効であると考えられる。
	学力の向上に努める	・授業に積極的に取り組むと同時に、状況に合わせた学習態度を確立する ・卒業後を意識し、自身に必要な学力を身につける	C						
	進路目標を確立する	・自分の夢を見つけ、夢の実現のための進路目標を定める ・進路目標について深く考え、担任や保護者と相談していく	B						
第一学年	基本的生活習慣の定着	・高校生としての基本的生活習慣を身につける ・校則・社会規範を守ることを身につける。また学校生活を通して他人に対する思いやりの気持ちをもつことで協調性を身につける ・元気な挨拶、正しい言葉遣い、礼儀に始まるコミュニケーション能力を身につける	C	B	・出席率が年間累計98.6%で目標の99%を達成することができなかった。欠席遅刻が多い生徒は特定の生徒であるが、欠席や遅刻に対する意識を向上させるための方策が具体的に実施できなかったことが反省点である。 ・規範意識はある程度のレベルでは身についたように感じる。しかし、違反者指導を受ける生徒がいたり、服装の指導を受けたりする場面があり、より高いレベルで規範意識で向上できるよう根気強く指導していく必要がある。 ・学習面では、各担任の細やかな指導で一定の成果があったように思う。主体的に自身で考えて意欲を高めていくことが今後の課題である。 ・進路について早期から考えている様子が見られた。進路目標に向けて生徒それぞれが前向きに色々なことに取り組む事ができた。	B	・出席率が向上するよう生徒の意識を高めることが必要。高いモチベーションを維持できるよう、面談等を通して生徒に時期に応じた目標設定をさせる指導をしていきたい。 ・ルールを徹底することが当たり前になるよう指導していくことが重要。注意されてからではなく、自主的に行動できるよう学年全体で意識の向上に努めていきたい。 ・進路目標の実現に向けて、早期に目標を具体化していくことが必要である。また、保護者に対しても家庭で話す機会を持ってもらい、担任と保護者が密に連携し、情報を共有していくことが大切である。	B	・目標達成に向けよく努力している。 ・将来の進路を含め生徒が自己実現を目指して努力するような指導をお願いしたい。
	学習に向けての姿勢を養う	・授業に積極的に取り組み、学習に臨む態度を確立する ・ノート・プリント等を確実にこなし、提出物を期限内に忘れずに出す	B						
	進路について考える	・ガイダンス等に積極的に参加し、進学・就職に対する考え方を学ぶ ・自ら積極的に進路について興味関心を持ち、担任や保護者と相談していく	B						
国際理解	学科・コースにあった 修学旅行内容の精選	・前年度のアンケート結果、金額等を検討し実施計画の作成をする	A	A	諸事情により韓国への修学旅行は国内に変更になったが、アンケート結果はいずれのコースもほぼ満足という結果であった。	A	殆どの生徒が決められた日程に従っているだけなので、いかにして生徒に積極的な活動を促すかが課題である。	A	・修学旅行は、国内・国外を問わず大切にしてほしい。 ・国際理解をどうとらえるか検討の余地があるのでは。
	訪問先の国や地域、場所の情報を 収集し、事前学習をする	・LHR計画でその時間を設ける	B						
危機管理	防災訓練の実施と消防設備の 整備、学校施設の点検・管理	・施設・設備の定期的な点検・巡回と防災訓練の必要性の徹底	A	B	例年通りの防災訓練を行い、生徒はまじめに取り組んだ。施設・設備の定期点検については大きな問題はなかった。	A	積極的に若手の教員を講習会に参加させ、危機管理の意識を向上させたい。	A	・生徒の安全を第一に取り組んでいると思う。 ・どんな状況にも対処できるよう日頃の意識を大切にしてほしい。
	危機管理講習会の実施	・様々な講習会への参加と周知徹底	B						